



サポート君

かかみがはら

K A K A M I G A H A R A



笑顔をのせて
出発進行!

9月11日(日)に開催された福祉フェスティバル2011でのひとコマです。
当日は暑い日となりましたが、大勢の人でにぎわいました。
なかでも岐阜工業高等学校のミニSLは大人気で、かわいい歓声があがっていました。



この広報紙には、皆さんの会費と
赤い羽根共同募金が使われています。

一般・特別会員合計 36,526世帯 18,548,766円

賛助会員合計 845法人・事業所

3,526,500円

(平成23年9月20日現在)

社会福祉協議会会員・会費募集お礼

ご協力ありがとうございました

今年度はじまった「さくらクラブ」ボランティアさんがバイオリンを演奏してくださりました。現在ボランティアハウスは70ヶ所あります。



8月に実施しました社会福祉協議会会員募集につきまして、市民の皆さま、そして市内の事業所、法人、団体の皆さまにご理解とご協力を賜わり、厚くお礼申し上げます。

また、募集にあたりましては、自治会長さまをはじめ自治会役員、民生委員児童委員の皆さまにもご尽力をいただき、重ねてお礼を申し上げます。

9月20日現在の集計結果は、上記のとおりです。詳細は次号の社協だよりにて報告をさせていただきます。

市民の皆さまからいただきました会費は、ボランティアハウス事業（写真）や支部社協活動をはじめ、本会が推進する地域福祉事業のための貴重な財源として大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

災害ボランティアバス派遣報告

平成23年7月8日～11日

東日本大震災により被害の大きかった岩手県大槌町の復興を支援するため、社協では災害ボランティア35名とともに、7月8日～11日までの3泊4日の日程でボランティア活動を行いました。

35℃を超える猛暑に加え、余震による津波警報、避難指示が発令され、作業が中断するアクシデントもありましたが、大槌川に戻ってくる鮭のために川をきれいにする「鮭プロジェクト」や復興のシンボルとしての「菜の花プロジェクト」に参加することができました。



混在するガレキを分別する作業（鮭プロジェクトの河川清掃）

参加された方にアンケートにてご意見をお伺いしました。

ボランティア活動を

おこなったみなさんの感想

自然災害の凄まじさを肌で感じ、被災者の苦悩もわかった気がする。ボランティア活動そのものを他人事のように感じていたが、今回同行した35名、また現地でボランティア活動される方々をみて、参加する勇気と一歩の踏み出しさえあれば、ボランティアはできるんだと思いました。

（60代女性）

河川のガレキを拾い集める



今年、支えあうことの大切さを知った。



赤い羽根共同募金は、高齢者、障がい者、子どもたちなどへの、地域の福祉活動を支援する募金です。災害時には、「災害ボランティアセンター」の設置や運営など、被災地支援にも役立っています。

赤い羽根共同募金

10月1日～12月31日 赤い羽根 共同募金 www.akaihanne.or.jp

東日本大震災では、赤い羽根のもとにたくさんのお義援金が寄せられました。ご協力ありがとうございました。



10月から共同募金運動が始まりました。お寄せいただいた寄付金はさまざまなお福祉活動に活かされます。今年も何卒、ご協力お願いいたします。

赤い羽根の
季節に
なりました



昨年の募金活動のようす (那加中ふれこみ隊のみなさん)

ご協力ありがとうございます 東日本大震災義援金のお礼

このたびの大地震で被災された皆さまへの義援金の募集につきまして、多くの方々にご協力をいただきありがとうございます。義援金の募集については、平成24年3月31日まで行なっておりますので、今後ともご協力をお願いいたします。

岐阜県共同募金会各務原市支会



個人でできることは「八チドリ」のひとしずく」であっても、善意の輪が広がればかなりのことができることを実感しました。(60代男性)

各務原市民も社会参加・ボランティア活動に積極的であることが分かった。また、求められるものも日々刻々と変わっていくことを学ぶことができた。(60代女性)

一人でも多くの人が行動を起こして、それによって現状が少しでも改善されていく、それだけでいいのではないかと今回のボランティア活動を通じて感じました。(20代女性)



「菜の花プロジェクト」として河川をつるはしで耕しました。

黄色にそまつた大植川にまた訪れたいと願いました。



多くの方が現地へボランティアに行かれています。活動にあたり、「災害ボランティア保険」の加入を求められます。当会で加入手続きができますので、ご印鑑と保険料(天災A490円 天災B720円)をお持ちの上、事務局までお越しください。

ふくしの保険

検索



はじめる ことからはじめよう ボランティア

東日本大震災では、炊き出しやがれきの撤去など現地での支援活動だけでなく、それぞれの地域から支援物資を送ることや募金活動を展開することなど支援の輪が広がりました。「何かをしたい」とはじめてボランティア活動に参加された人も多いと思いますが、これまでもさまざまな身近なところでおこなわれています。ボランティア活動は、日々の暮らしを豊かにし、自分の意思で参加する自主的な活動です。

あらためてこの震災をきっかけに、これまで以上に身近な地域での一人ひとりの「絆」や「つながり」が求められています。

まずは、参加してみよう

社会福祉協議会ボランティアセンターでは、はじめての人でも取り組みやすいように手話や点字、音訳、要約筆記ボランティア養成講座を開催しています。修了生は、それぞれのサークルに入り、ボランティア活動に取り組んでいます。今回は、活動中の5名のボランティアさんに①活動のきっかけ、②活動をはじめたこと、③これからの思いなどのお話を伺いました。

手話サークル協議会

はにわ会会員



山田千尋さん

鵜沼各務原町在住 3年目

①さいたま市から昨年各務原市に引っ越してきました。さいたま市で入門編は受けていたので、基礎編も受講したいと思っていました。②手話はやればやるほど難しいと感じます。人前での手話は恥ずかしいけれど、皆さんとの交流は楽しいです。③生涯学



林 里美さん

蘇原大島町在住 4年目

①子育てもなんとか落ち着き、自分の時間もできはじめ

習としてこれからも続けたいです。手話をとおして多くの友人をつくるきっかけができました。はにわ会は和気あいあいとした雰囲気楽しく参加させてもらっています。これからできる限り長く続けたいと思っています。

たのでなにか始めようと思いましたが、なにかは始めるのであれば、人と関わる活動がいいなあと。②いざサークルに入って活動しはじめると先輩方とのレベルの違いにあせっちゃっています。不安とともに今も活動していますが、忙しいなか1日かかりで教えてくださる先輩たちの姿勢を見習いたいと思います。③少しでも先輩に近づきたいかな。教えられることも多く、逆にボランティアをさせてもらっているという思い。いろんな意味で皆さんに支えられています。自分のペースで伝えることができたいと思います。



古賀一司さん

68歳からはじめて今73歳
鵜沼朝日町在住 5年目

①これまではスポーツをやっていたが、体を痛めできなくなり、社協だよりで手話講座の記事を見てすぐに応募しました。②サークルは女性が多くて引いてしまうこともあります。はじめの3年は手話ニュースをみても単語すらわからなかったが、この2年は理解できるようになり、おもしろいと感じてきました。③私は無口な方なので、おしゃべりが苦手です。手話は難しいけれど、人の話を聞くことも楽しいですよ。年齢的に長く続けることが一番難しいと思うけど、まだまだ当分はできると思います。





鵜飼道代さん

蘇原希望町在住 12年目

①バドミントンサークルに入ったとき、耳の聞こえない人と一緒に昼ご飯を食べに行きました。私はおしゃべりが好きな

ので、その日のうちに手話の本を購入しました。でも会話となると一方通行ではだめだと思い、手話講座にすぐに応募しました。②活動は手話の技術だけではないと思います。つたない手話でも単語の一つひとつが人と人、心と心をつなげる働きがあります。交流が大切だと感じます。③今では、冗談も言える（わかる）間柄になりました。子育ての悩みや料理方法も語りあいました。これからも相手のことを知りたい、伝えあいたいと思います。



横山みどりさん

音訳ボランティア
あじさいの会 会員

年目 つつじが丘在住 4

①結婚を機に京都から転居してきました。



横山愛子さん

「大切なのは、理解するきもち」

前述でお話を伺ったボランティアと関わっておられる聴覚障がいのある横山愛子さんに耳が聞こえないということやボランティアとの交流について話を伺いました。

耳からの情報がまったく入ってこないのも、とても不安です。病院や銀行での呼び出しの声、周りのおしゃべりも聞こえませんが、地震が起きてもどこに避難するのか、どこに行ったらよいのか、ラジオが重要と聞いても情報を得ることができません。ボランティアさんから多くの情報を得ていますが、聴覚障がい者にとって手話はそれ以上に人

とつながる大切なものです。一人でも手話のわかる人が増えてほしいけれど、もっと大切なのは相手のことを聞くことだと思います。手話がわからない人でも身振り手振りでも十分伝わります。企業や地域社会で障がいのある相手を理解しようという気持ちをより多くの人に持ってほしいなあと思います。

音訳を知るきっかけは幼なじみの視覚障がいのあるご両親ですが、毎日の生活はいたって普通そのもの。自分が幼い時はわからなかったけれど成長とともに目が見えないというこの重大さに気づきました。各務原市のことを知りました。各務原市のことを知りました。各務原市のことを知りました。各務原市のことを知りました。各務原市のことを知りました。

だざり、とてもうれしかったです。③今の自分の目標は細く、長く続けること。がんばりすぎず、楽しみの一つとしてボランティア活動があればいいかなと思います。だからもっと若い年代の人にもお楽しみの一環としてボランティアに参加してほしいなと思います。



お話を伺って感じたことは、皆さん時間をうまく使って活動を楽しんでおられることと話された時の穏やかな表情や笑顔に心をいやされたことです。誰かのためにちょっとした時間と自分ができるなにかを役立てることが生活を豊かにしてくれます。そんな活動をあなたもはじめてみませんか。今回、お話を伺った活動以外にもボランティア活動はさまざまな場面ではじめることができます。

社協ボランティアセンターでは、個人や団体登録、活動先の紹介などを行いますので、ぜひ、お気軽にお問い合わせください。

もっと高く、もっと遠くへ 飛べ 水ロケット！

社協蘇原北部支部 地域子育て支援活動

各務原市社会福祉協議会蘇原北部支部では、8月9日(火)に、子育て支援活動として、ミニロケットの製作と打ち上げ、水ロケットの打ち上げを実施しました。

会場は、そらら子ども館と蘇原第一小学校のグラウンド。当日は晴天にも恵まれ、幼児から小学校高学年まで大勢の子どもたちが集まってくれま

した。

まずは子ども館で、ミニロケットを作りました。材料は折紙大の厚紙とシール。大人の人から作り方のお手本を見せてもらったら、子どもたちはふれこミ隊のお兄さん、お姉さんの助けを借りながら、自分の力でロケットを作りました。ロケットが完成したら、いよいよ打ち上げです。全員、

小学校のグラウンドへ移動。輪ゴムが発射装置です。ミニロケットに輪ゴムをひっかけて、パチンコのようにロケットを引く張ります。みんな一斉に空にむかってミニロケットを発射。一直線に空に舞い上がっていきま

ながら落ちてきたロケットを追いかけて、歓声をあげてグラウンド中を走り回ります。暑さで汗だくになりながらも、何度何度も夢中になって自分で作ったロケットを空に打ち上げていました。中には破れてしまつて、ペソをかいている子も。でも、そんな子もお兄さんお姉さんや周りの大人たちがやさしく見守つてくれて、助けてくれます。

今度は水ロケットの打ち上げです。ペットボトルでつくったロケットを発射台にセット。ポンプで空気をいっばいに送り込みます。みんなでカウンタダウンの開始。「10、9、8、7、6、5、4、3、2、1、発射」

勢いよくロケットが空高く打ちあがります。さすがに紙製のミニロケットとは迫力が違います。打ち上がる度に、大きな歓声があがります。暑さも忘れて、しばしロケットに見とれていました。

いきいきとした子どもたちの笑顔と笑い声があふれる地域であつて欲しいと強く思いました。

地域の支えで30周年 社協緑苑連合支部

第30回敬老のついで



あなたも私も楽しくダンス!!

なつて手をつないだフォークダンス、ふるさとの合唱も素敵な緑陽中学校の吹奏楽を楽しみました。30周年記念に若草色のタオルも配布され、参加者の皆さんは来年もお互いに顔を合わせ、たくさんおしゃべりできるとよいねと話しておられました。

今年度の緑苑福祉標語最優秀賞を紹介します。

緑苑小学校

応募総数91作品

「ありがとう」

その一言が、きずなの芽

6年1組 幸本 朗さん

緑陽中学校

応募総数140作品

おはようで

始まる朝の 気持ちよさ

1年5組 稲垣かおりさん



稲垣かおりさん



落着くときは、ロケットがくるくと回転して、ゆっくりと落ちてきます。重し代わりに貼ったシールがとてきれいに見えます。子どもたちは、風に流され

勢いよくロケットが空高く打ちあがります。さすがに紙製のミニロケットとは迫力が違います。打ち上がる度に、大きな歓声があがります。暑さも忘れて、しばしロケットに見とれていました。

9月19日(月・祝日)に緑陽中学校体育館で第30回緑苑敬老のついでが開催されました。昨年度より20名多い192名の高齢者や自治会役員、民生委員、近隣ケアグループ員などで体育館は一杯でした。

安村支部長のあいさつでは、地域や仲間の支えで30回開催できたことやこれからもお互いに助けあえる緑苑でありたいことなど話されました。福祉標語の表彰式の後、綾筆会の琴の演奏、笑扇の民舞、子ども会のソーラン踊りやひまわりフォークダンスクラブの皆さんとともに参加者が輪に



救急法も体験



手話で表現してみましよう

各務原市福祉フェスティバル2011

ご来場ありがとうございました



特別支援学級作品展



点訳体験コーナー



みなもダンスで会場がひとつに



ちびっ子指揮者体験

ボランティアグループ紹介

75

ほ・ほ・え・み・会



「朝だあいさつ、
あいうえお・・・」
唇を動かさずに発声練習、
おしゃべりを。えっ！そんな
難しい事など無理、無理
くと、おっしゃる皆様へ
腹話術サークル「ほ・ほ・
え・み・会」によつこそ!!
ほ・ほ・え・み・会は、2007
年に生涯学習終了者で結成
した市のサークルです。月
二回の例会での練習、また
ボランティア活動等で、日々
技術の向上に励んでいます。
ボランティア活動では、
腹話術の他に各会員の特技
(マジック、どじょうすく
い、南京玉すだれ、抒情歌
を歌う等など)を生かして



フカレッジ稲羽東閉講式

活動しています。
保育園、幼稚園、
小学校などは、
つれさり防止、日
々の生活、交通安
全、などについて
成人対象には、
腹話術人形を使
った、おれおれ
詐欺、キャッシ
ユカード詐欺の
寸劇もおりませ
た啓蒙活動もしてい
ます。
ポリシーは会の名前
のように、人形を通
し、あなたもわた
し、ほ・ほ・え・み
をです。
興味のある方は、
ご連絡をお待ちして
おります。

ダニエル・カールさん来たる！

第45回 各務原市社会福祉大会

- 日時 11月22日(火)
午後1時～3時30分
- 内容 福祉関係功労者の表彰
記念講演 ダニエル・カールさん
(タレント・東北弁研究家)
演題『人にやさしい人づくり』
- 会場 各務原市民会館
- 入場料 入場は無料ですが、整理券が必要です。
整理券は10月21日(金)から次の窓口で配布します。
- 問合せ 社会福祉協議会 総務課
☎058-383-7610



【各市民サービスセンター・川島振興事務所・市民会館・市役所社会福祉課・社会福祉協議会事務局】

**食卓をみんなで囲もう
お達者でクッキング**

食欲の秋がやってきました。サンマや松茸、旬の素材がたくさん頭に浮かんでますね。そんな「おいしいもの」をよりおいしく楽しめる『お達者でクッキング』。同じ食事で大勢で作ったり食べたりすることで、おいしさも倍増します。おなかをすかせて是非ご参加ください！

- 日時 11月15日(火)
午前10時～午後1時
- 会場 総合福祉会館
3階料理室
- 対象 一人暮らしの高齢者
・高齢者夫婦の方
- 参加費 500円(材料費)
- 定員 25名
- 協力 市食生活改善協議会
- 申込み 11月7日(月)までに電話で
社会福祉協議会 総務課
☎058-383-7610



地域や生き方を考えよう

市民福祉講座

社会福祉協議会では地域住民による見守りなど支えあい(共助)の大切さを学ぶ「支えあいサポーター塾」を開催し、今年33名の方が参加しています。
このサポーター塾として開催する講演会について、一般の方も市民福祉講座としてぜひご参加ください。

市民福祉講座①

「いくつになっても輝こう！」
近隣ケアグループの活動発表と講演会

- 日時 10月24日(月)
午後1時30分～3時30分
- 講師 辻イト子さん
(タレント)

市民福祉講座②

ボランタリーハウスおよび障がい者施設の活動発表と講演会

- 日時 12月16日(金)
午後1時～3時30分
- 講師 松平 實胤さん
(天山寂光院山主)

- 会場 講座①②ともに、産業文化センター あすかホール
- 入場料 無料
- 問合せ 社会福祉協議会 総務課
☎058-383-7610

善意のご寄付をいただき 誠にありがとうございました

(敬称略・順不同 平成23年6月11日～平成23年9月15日)

金 銭

- ・グリーンフェア参加者一同 10,000円
- ・宇野 巳代治 5,350円
- ・ピースフルマーケット
運営事務局 3,232円
- ・財団法人 田口福寿会 500,000円
- ・愛歌岡田歌謡教室 25,000円
- ・松浦 義一 200,000円
- ・つくしの会 3,508円
- ・東濃信用金庫鵜沼支店 1,172円
- ・篠田 充弘 500,000円

物 品

- ・黒野会館
- ・JAぎふ女性部かかみがはらブロック
- ・夢屋各務原店
- ・各務原市理容師会
- ・匿名1件



ひとりごと

東日本大震災や原発事故、豪雨災害、景気の悪化など、日本としては暗いニュースが多かった上半期だった。

被災地では未だに困難な状況が続いているが、今回の災害をとおして改めて「人と人のつながり」の大切さを感じている。

一人ではくじけそうになっても、まっことでも、誰かがそばにいてくれる、見てくれている、声をかけてくれる、一緒に涙を流してくれる、汗を流してくれる。それがどれほどの勇気と力を与えてくれることか。

「自分の力だけで生きていこうな気分になっていないか?」と、自分に問いかけてみる。

実際には、目に見えないところで多くの人に助けられている。気づかないところで支えられ、生かされている。そのことを忘れてはいけない。そして、その人たちへの感謝の心を忘れてはいけないと思う。(野村 聡)